

## へいわのはなし

令和6年8月7日

- この折り紙はなんですか。そう、おりづるですね。おりづるは、へいわのしんぼるです。ではどうしておりづるが平和のシンボルなのかをお話したいと思います。
- 今から79年前の8月6日 8時15分、いったい何が起こったでしょう。広島に初めて原子爆弾というすごい爆弾が落ちた日です。この原子爆弾で、約14万人の人がなくなりました。廿日市市の人口が11万人ですから、それより多い数の人が一度に亡くなりました。
- これが原子爆弾が落ちた後の、建物です。
- 落ちる前は産業奨励館という建物です。
- 今の原爆ドームです。これは見たことがあるし、知ってるよね。
- これが原子爆弾が落ちる前と落ちた後の写真です。下の写真を見てみると、焼け野原で、ビルの一部が残っているだけです。一瞬にしてこんなことになったんです。本当に原子爆弾はおそろしいね。
- 鉄が溶けるくらいとても熱かった
- 今はこの辺りは、平和公園になっています。
- この平和公園の中に、こんな像があるのを見たことがありますか。これは、原爆の子の像といいます。この原爆の子の像の上のほうを見てください。
- これは何を持っていますか。そうです。折り鶴ですね。
- この像の子どもは、「佐々木偵子」さんといいます。2歳の時に原子爆弾の被害にあいました。そのときは、助かったんです。
- 佐々木偵子さんは、とても足が速くて、秋の運動会ではいつも一番だったそうです。リレーの選手にもいつも選ばれたそうです。運動がとても得意だったんで

すね。

○ しかし、小学校6年生の冬ごろから、顔が腫れ始めて、体の調子が悪くなったんです。おかしいなと病院に行くと、白血病というおそろしい病気だったのです。原子爆弾で受けた放射線という目に見えない光線が原因だったんです。あと一年ももたないかもしれないといわれたそうです。

○ 「早く良くなってね。」と、お見舞いとして折り鶴が送られました。それから、病院で折り鶴を1000羽折れば元気になると信じてツルを折りつづけたんです。8月の下旬に折った鶴は1000羽を超える。これが実際に偵子さんが折った鶴です。

○ しかしながら、その願いも届かず、その年の秋に危篤になり、お父さんから食べたい物は何かと尋ねられ、偵子は「お茶漬けを食べたい」と伝えました。家族が大急ぎで用意したお茶漬けをたくあんと共にふた口ほど食べ、「お父ちゃん、お母ちゃん、みんなありがとう。」と呟いた。これが最期の言葉となったのだそうです。

○ 佐々木偵子さんがなくなられて、「偵子さんを始め、原爆で死んだ子の霊を慰める像を創ろう」と、偵子さんのお友達に提案があり、それを作るための募金活動を行ったりしながら、偵子さんなくなられて、3年後にこの像ができあがったそうです。

像の真下にある石碑には、「これはぼくらの叫びです これは私たちの祈りです 世界に平和をきずくための」と刻まれています。ということで、折り鶴は平和のシンボルとなったんです。

○ 「へいわ」なよのなかにするために、わたしたちにできることはなんでしょう。戦争は国と国のけんかです。国と国のいじめです。どの国もいじめやけんかをしないようにしないといけません。一つの国だけが平和ということがないように、平和は一人ではできません。

どうしたら平和な世の中にできると思いますか。みんなにもできることがありますか。

ひとにやさしくすること

ひとのきもちをかんがえてこうどうすること

けんかをしていたら、とめて、はなしをきいてあげること